

まごころだより 高松

2022年春号
令和4年4月1日発行

発行所 まごころケアサービス 高松センター
〒761-8052 高松市松並町802番地1 TEL 087-865-8001 FAX 087-865-8039 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp URL http://cho-jyu.info/
印刷所 株式会社成光社 〒760-0065 香川県高松市朝日町5-14-2 TEL/087-823-0222



滝宮天満宮のしだれ梅



皆で頭の体操 カルタ取り



湊川の河津桜

「私の好きな場所」

NPO法人長寿社会支援協会

理事 木村 幸博

日本の役人は、一億総貧乏化を進めているかのように、規制、規制で日本人の自由な行動を制限しております。

最たるものは個人情報保護法。住基カード、マイナンバーと、何度か焼き直しをしておりますが、役所でのたらい回し、殆どの役に立ちません。

私の好きな場所、それはそんな規制から離れたところ。アメリカ、ロサンゼルス郊外シールビーチ。町並みの綺麗な海辺のリゾート地。ヨットハーバーには豪華なクルーザーが数百隻も係留され、内陸部には町営の小型機用の飛行場があり、小型機が数百機駐機してあり、また頭上を飛行しています。

この町のカフェーの一角に座り、コーヒーを飲む。私の至福の時間です。私にはクルーザーも無いし、私の飛行機もないし、そこに私の家もない。ただそのカフェーでコーヒーを飲むだけ。そこには、日本の規制もなく、贈与税もなく、気にする人目もない。そんな場所が、そこにはあります。残念なことは、年に何回かは、行けないことです。

● 目次 ●

● 私の好きな場所	1
● 各部会だより	2
居宅介護支援事業所	2
訪問介護	2
まごころサービス	3
まごころ寒川	3

研修部	3
● 単語パズル	3
● 会員だより	4
● 会員の唄	4
● 新任のご挨拶	4
● 編集後記	4

■各部会だより

居宅介護支援事業所

日々の業務の中で様々な「最後の時」に遭遇します。多くの持病を持っているながらも、つい一ヶ月ほど前までお元気で何でも食べたがっていたAさん、急に食欲がなくなったとたん息を引き取りました。

身寄りもなくお一人暮らしのBさん、体調不良を訴え入院し、僅か一ヶ月も経たないうちにあっけなく死を迎えました。しかし何より寂しいのは自分より先に子供が死を迎えることです。

Cさんは施設のショートステイなどを利用しながらご自宅で一人暮らし。ある朝、関東在住の娘さんが「癌」で入院し手術の出来ない状態だとのこと、「最後の時は家族と共に」と自宅に帰ったとのことでした。

Cさんは何としてもすぐに会いに行きたいと願い、息子さんも車で連れて行くかと考えましたが、コロナ禍のもと県外へ出るのはためらいがありました。あれこれ思いあぐねた結果、苦渋の判断で地元香川に止まり祈ることを決断しましたが翌

朝、娘さん死去の報がもたらされました。

愛する娘の最後をみとることの出来なかった、そして子供に先立たれた母親の気持ちはいかばかりか察するに余りあります。その後Cさんは入所施設のご配慮で娘さんの葬儀にリモートで参列されたとお聞きしました。

一方介護が必要となった方でも自宅でお元気に生活されている方もたくさんおられます。Dさんご夫妻は病気による後遺症や体力の低下などで歩行困難があります。福祉用具のレンタルやデイサービスを利用し、公民館での体操教室にも参加しています。週2回市外から通う娘さんの

支援を受けながらご夫妻は互いに見守りあい、助けあいながら日々明るく過ごされています。

Eさんご夫妻、ご主人は86歳と高齢ですが現役の理容師さんです。奥様は定期的に通院が必要ですがデイサービスを利用し地域の人々の支えを受けながらお二人で元気に過ごされています。



人は必ず老い、皆様のお世話になる時が来ます。介護が必要となった高齢の方々もご自分のことができることを精一杯しながら日々支援を受けています。支援するご家族には無理のない範囲で末永い援助を祈っています。介護の日々は続くのですが援助する人も、される人も悲観的にならず今を受け入れておられます。写真撮る事のお願ひにも快諾され、しかも笑顔に満ちておられます。これから仲良くお暮しく下さい。

訪問介護

Aさん（女性）宅には週2回、訪問介護で掃除のお手伝いとして伺っている。Aさんはお一人暮らしなのに毎回訪問のたびにゴミの山。そして、近所の野良猫たちのエサがあらこちらに散らかっている。

新聞や服などが部屋中に散乱し、まさに足の踏み場もない状況である。台所ではコンロが汚れ、流し台も溢れるばかりに食器が盛られている。まあ3日や4日でよくもこんなと思うが、本人は平気。しょっちゅうお金が無くなったと訴える。でも、ヘルパーと二人で探せばどこからか出てくる。

衣類や置物を「これ片付けましょう」というと「姉ちゃんが帰って来たとき、どこに置いたか分からなくなるからこのままに」とすでに亡くなっているお姉さんに想いを馳せている。

市やケアマネージャーから施設での生活を勧められ



でも「そんな聞いたことのない所へ行くのは嫌だ、この地域で住みたい」と断っているという。こんなAさんだが不思議とどこか憎めない。また明日、あの開きにくい玄関に挑戦しながらAさん宅を訪問する。

まごころサービス

毎年春のこの時期になると、子供のころに母が作ってくれた「鯨の押し寿司」を思い出します。今回はさぬきの郷土料理である「鯨の押し寿司」を作ってみました。

押し抜き型のなかったのでタッパーで代用しました。添え物のすまし汁には花麴と三つ葉をあしらって春らしく演出しましたがいかがでしょうか。



まごころ寒川（あかりの里）

春まだ浅い時節ですが一雨ごとに暖かくなり、春は確実に近づいている

ようです。東大寺のお水取りは奈良時代より始まり、今年で1271回目になるそうですが、いよいよ桜の便りが待ち遠しくなってきました。

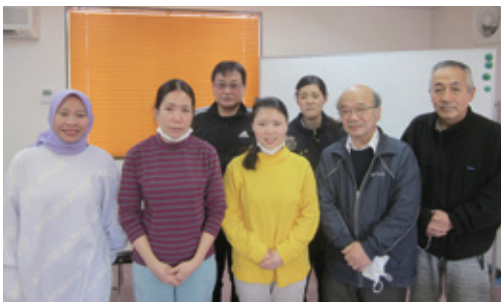
入所中の皆様もこれまでの厳しい寒さから解放され、圧迫骨折で体調を崩されていたAさんはじめ皆様方、穏やかに過ごされています。

しかし今、ロシアによるウクライナの侵攻が日増しにひどくなるばかりで、ウクライナの人達は毎日不安と悲しみの中一日でも早く戦争が終わり、平和な日々が戻る事を願ってやまないでしょう。ほんとうに祈るしかありません。

研修部

介護福祉士実務者研修

この研修は介護福祉士の国家試験を受験する際に必要なものです。昨年11月に6名が入校しました。研修課程の大半は



自宅学習ですが、途中7日間のスクーリングが組まれていて、11月入校コースの受講生は1月から2月に

わたり毎週土曜日、事務所2階の研修室で受講しました。今年4月には6ヶ月の受講を終えて卒業となります。全員がそろって卒業し介護福祉士の資格を取得して介護現場で活躍されますよう期待しています。

なお、今年度も毎月受講生を募集中です。介護職としてのスキルアップのため挑戦してみませんか。詳しくは下記までご連絡ください。

（ラポールカレッジ）087-815-0760

福祉有償運送運転者講習

令和4年3月26日（土）福祉有償

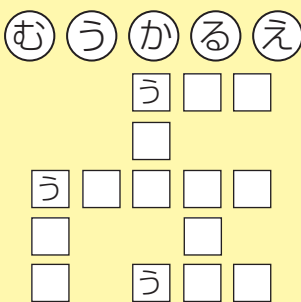
運送運転者講習を実施し、7名の方が受講されました。様々な理由で公共交通機関の利用が困難な人の移動を支援する運転手を養成する講習会です。

この講習を受けると一定の条件のもと国の登録や許可を受け、2種の運転免許がなくても移動サービスの運転手として活動できます。今、高齢化の進行により免許の返納が加速しています。益々増える移動困難者や移動制約者の方たちに対し、この講習会修了者が担い手として活躍されることを期待しています。

私たち「まごころ高松」でも「まごころ移動サービス」として移動支援を行っています。お困りの際は声がけいただければと思います。（まごころケア高松）087-865-8001

単語パズル

次の五文字を使って単語を作りましょう。



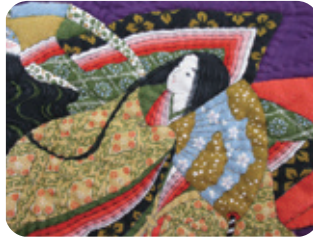
会員だより

肩から編むベスト

小西 路

三十年の時間が過ぎてタンスの奥にやと陽の光が宿ったアクリルベスト、イエローベージュの光に包まれているけれど濃い黄色のV字模様もとてもよく似合っている。

もしかしたら、その道へと進むことができたかもしれない、その思っただけで切なくなってくる。そのとらわれびとの確かさが歩みつつ走り、走りつつ歩んでゆくと。



パッチワークのお姫様

新任のご挨拶

初めまして。

今年の2月からお世話になっております、多田勝之です。介護支援専門員として務めさせていただきます。

コロナ禍で大変な時、少しでも利用者様や御家族様のお役に立てればと思います。

また、事務所の職員の方々には、毎日丁寧な御指導をして頂いております。

今後ともよろしくお願いいたします。

多田 勝之

単語パズルの答え

う	る	か
う	え	る
え	る	う
か	む	む



唐渡 義一 作

会員の唄

『老人ケアホーム孤独生活』
静寂老風景 15年目 95才 枯老翁

① コロナのショックは
ワクチン様マー安心

② 遠い西国のドンパチ騒ぎより
日本の燃料(ガソリン)値上げ
食べて生きるだけの
老人にかかり無し

③ 認知果敢老人
からのお願い
生きる事は食べる事
料理と調理は
食べる道を拓く
食事の楽しい時間と
快話が欲しい

令和四年 唐渡 義一 超

まず一句

白寿まで粘らんと、雑煮食う

編集後記

昭和5年生まれ、今年92歳を迎えられるK・N様のまず一句です。昭和60年からヘルパーとして香川県老人福祉問題研究会に関わってくださり、今は、ご自身が週2回デイサービスをご利用されながら、ご自宅で週1回親しい方たちとミニデイサービスを開かれています。

ご自宅の周りの畑で、お一人で季節の野菜を育て、美味しい美味しいと食べて頂けることが何よりの幸せと差し上げています。

現役で働き、ボランティアの一員として世間とかかわり、90歳を過ぎてもご自分の足で立ち生きていらっしゃいます。香老研からまごころに発展した40年は、K・N様のような先輩たちの、人間でないとできない仕事を丁寧引き継がれてきた証のように思えます。

コロナ禍や 心弾めど 春籠り
わが影を 友とし春の 昼散歩

2020年から続く新型コロナウィルスの感染の中、世の中が目まぐるしく変化している春、このように簡単に戦争が始まることを知らされた春。先輩たちの、人の役に立つ事を喜びとして働くことを改めて胸に刻み、日々を暮らしていきたいと思っています。